

○リンゼス錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 リナクロチド Linacotide 【分類】 慢性便秘症・便秘型 IBS 治療薬 [グアニル酸シクラーゼ C 受容体アゴニスト]

【単位】 0.25mg/錠

【常用量】 0.5mg/日 [症状により 0.25mg に減量]

【用法】 1日1回・食前

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (1)

【特徴】 14 個のアミノ酸からなる薬剤で、腸管の管腔表面に存在する GC-C 受容体を活性化することにより細胞内の cGMP 濃度を増加させ、腸管分泌促進作用、小腸輸送能促進作用及び大腸痛覚過敏改善作用を示す。IBS に関しては食事指導及び生活指導を行った上で症状の改善が得られない便秘型過敏性腸症候群に対して適用を考慮。腸管局所的に作用 (Bryant AP, et al: Life Sci 86: 760-5, 2010 PMID: 20307554)

【主な副作用・毒性】 重度の下痢、腹痛、貧血、肝機能異常、尿閉、発熱、口渇、消化器症状など

【吸収】 ほとんど吸収されない (1)

【F】 極めて低い (1) 0.1% [マウス] (Bryant AP, et al: Life Sci 86: 760-5, 2010 PMID: 20307554)

【tmax】 該当しない (1)

【代謝】 腸液ペプチダーゼにより小ペプチドやアミノ酸に分解 (1)

【排泄】 吸収されずに排泄 (1)

【t1/2】 該当しない (1)

【蛋白結合率】 資料なし (1)

【Vd】 資料なし (1)

【MW】 1526.74

【透析性】 吸収されないため該当しない (5)

【OW 係数】 資料なし (1)

【相互作用】 P-gp の基質ではなく阻害もしない (1)

【主な臨床報告】 1mg で有効 (Andresen V, et al: Gastroenterology 133: 761-8, 2007 PMID: 17854590)

0.1mg でも自発的排便を増加させ、1mg では排便習慣を改善 (Johnston JM, et al: Am J Gastroenterol 104: 125-32, 2009 PMID: 19098860)

0.075~0.6mg の範囲で有効であった (Johnston JM, et al: Gastroenterology 139: 1877-86.e2, 2010 PMID: 20801122)

0.145mg と 0.29mg/日の用量で慢性便秘に有効であった (Lembo AJ, et al: N Engl J Med 365: 527-36, 2011 PMID: 21830967)

メタ解析にて慢性便秘症、便秘型 IBS への有効性が確認され、主な有害作用は下痢 (Zhao Q, et al: Gastroenterol 2022 PMID: 34215016)

【効果発現時間】 作用は 1 週間以内に観察され、12 週間にわたって減弱しなかった (Johnston JM, et al: Gastroenterology 139: 1877-86.e2, 2010 PMID: 20801122)

【更新日】 20220623

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。